

実質化された人・農地プラン

注:本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
藤岡市	藤岡地域(藤岡、小林)	令和3年 3月31日	令和4年 3月31日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	99.00ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	62.66ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	26.97ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	13.41ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	2.86ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	10.05ha
(備考)	

注1:③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

対象地域の中心経営体の多くは、施設園芸主体の営農形態で、土地利用型の経営体は少ない。このため、現状では集積できる面積には限界がある。また、一部の地域では土地改良をすることが決まっているが、他の地域では水利も悪く、貸借等が難しい。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

藤岡地区は、農事組合法人等の米麦を主体とする中心経営体に集積を行う。
また、新規就農者等を受入れ、担い手の確保を行う。

小林地区は、施設園芸を主体とする中心経営体の規模拡大を図ると共に、米麦を行う中心経営体への集積を行う。
また、新規就農者等を受入れ、担い手の確保を行う。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農	A	施設野菜	0.93 ha	施設野菜	1.20 ha	
認農法	B	米麦	9.42 ha	米麦	15.00 ha	
認農	C	施設野菜、米麦	0.64 ha	施設野菜、米麦	1.50 ha	
認農	D	茸類、米麦	3.40 ha	茸類、米麦	3.40 ha	
認農法	E	施設花卉	0.96 ha	施設花卉	1.20 ha	
認農	F	施設野菜	3.79 ha	施設野菜	4.00 ha	
認就	G	露地野菜	0.41 ha	露地野菜	0.80 ha	
認農	H	水稲、施設野菜、露地野菜	0.90 ha	水稲、露地野菜、施設野菜	1.20 ha	
到達	I	米麦	0.30 ha	米麦	0.30 ha	
到達	J	米麦	0.46 ha	米麦	0.46 ha	
認農	K	米麦、露地野菜	0.70 ha	米麦、露地野菜	0.70 ha	
認農	L	肉用牛(繁殖)	3.53 ha	肉用牛(繁殖)	4.00 ha	
認農法	M	施設野菜	0.27 ha	施設野菜	0.60 ha	
認農	N	施設野菜、米麦	2.83 ha	施設野菜、米麦	4.23 ha	
計	14人		28.54 ha		38.59 ha	

注1:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2:「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3:「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。